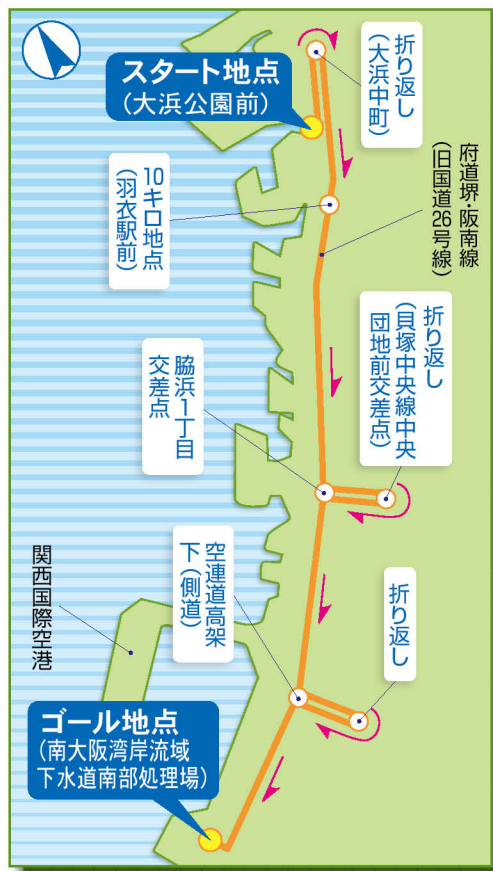


泉州国際市民マラソン 第4回大会 1997年(平成9年)

SENSHU INTERNATIONAL CITY MARATHON THE 4th CONVENTIONS

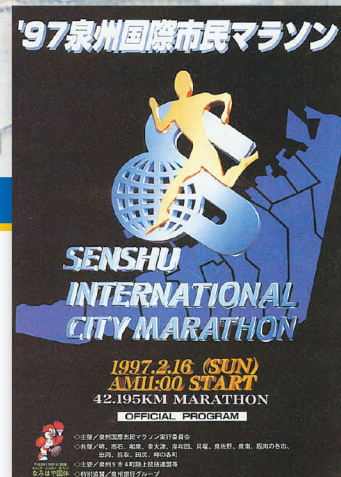


2月16日

天 候: 曇り
気 温: 7℃
参加者数: 2,993人
完走者数: 2,407人
沿道人数: 52万人

第4回
大会
コース

浜寺公園(スタート)→大浜折り返し→協浜1丁目→中央団地交差点折り返し→松原交差点→空運道側道りんくうタウン→南大阪湾岸下水道南部処理場(ゴール)

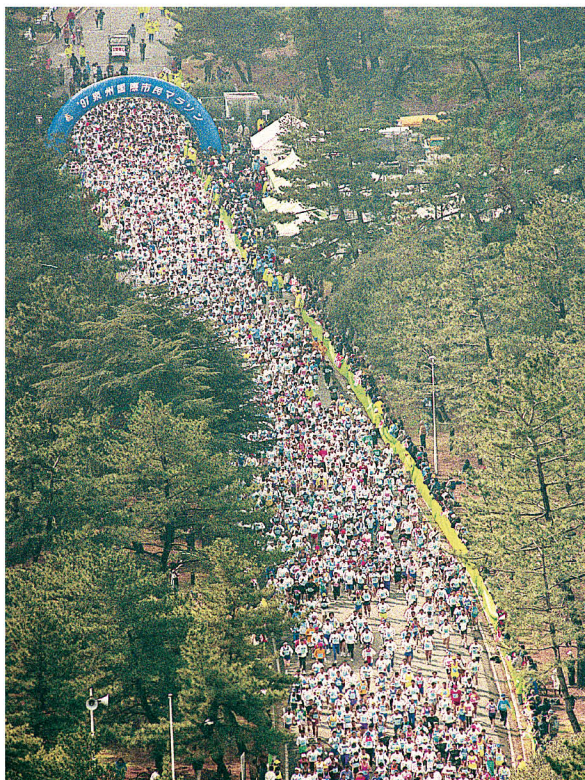


第4回の泉州国際市民マラソン大会は'97と冠づけ、9市4町の共催にて、ほぼワンウェイの新しいコースで行われた。コースが新しくなるたびに、距離計測を行わなければならない、陸連関係者は泊まり込みで交通量が少ない早朝に距離測定を実施した。

そのコースは、極力9市4町を通過することを原則として考えたが、距離や道路の事情から、通過できない市町があることはやむを得ないことであった。そのコース決定はコース検討委員会によって、幾通りも考えられた。決定するまでには、たびたび関係機関との折衝をしながら当局のアドバイスを受けた。その結果、堺市から南下し、極力泉州の市町を通過し田尻町スカイブリッジと泉南市のマリンブリッジを通り、フィニッシュを南大阪湾岸下水道南部処理場の特設会場とした。スタート地点は交通アクセスの面で浜寺公園が最適であり、府道堺阪南線を使って南下する片道コースとなった。

参加選手はタンザニアのジュマ・イカンガーはじめ、日本のトップクラスである仙内勇、阿久津浩三など内外の招待選手や、かつての名ランナー山田敬蔵、タレントランナー間寛平など、沿道の観衆には見ごたえのある選手の力走が見られた。その他、連続出場の地元NTT関西の桑原和雄、山田佐知恵、松田千枝、深尾真美など多彩なランナーにスタートからフィニッシュまで温かい声援が送られた。

優勝は2時間21分39秒の好記録で仙内勇(積水化学)が優勝した。女子はロシアのセミョーノバ・ジナイダの優勝であった。話題のイカンガーは35位に終わったが、1953年ボストンマラソン日本人初の優勝者、マラソン日本のパイオニア的存在の山田敬蔵(70歳)も3時間4分で力走した。なお、オーストラリアのヌーサマラソンの優勝者、クレイグ・ミードとヘレン・トルバーストの2名が特別招待された。



1997年(平成9年)2月17日付朝刊

大阪版

社会部 06(31)3111
 大阪支局 06(31)3145
 大阪支局 06(31)3146
 大阪支局 06(31)3147
 大阪支局 06(31)3148
 大阪支局 06(31)3149
 大阪支局 06(31)3150
 大阪支局 06(31)3151
 大阪支局 06(31)3152
 大阪支局 06(31)3153
 大阪支局 06(31)3154
 大阪支局 06(31)3155
 大阪支局 06(31)3156
 大阪支局 06(31)3157
 大阪支局 06(31)3158
 大阪支局 06(31)3159
 大阪支局 06(31)3160

沿道ではだんじり囃子の応援も (岸和田市街で)

泉州路 大声援も駆ける

国際市民マラソン

温かい人情に感激 外国人走者

○オーストラリア人の走者、ジョージ・ワイルドは、泉州路の人情に感激し、大会を満喫した。泉州路の人情に感激し、大会を満喫した。泉州路の人情に感激し、大会を満喫した。

泉州路の人情に感激し、大会を満喫した。泉州路の人情に感激し、大会を満喫した。泉州路の人情に感激し、大会を満喫した。

沿道に教え子見つけ発奮 高橋先生

○高橋先生は、沿道に教え子を見つけて発奮し、大会を満喫した。高橋先生は、沿道に教え子を見つけて発奮し、大会を満喫した。高橋先生は、沿道に教え子を見つけて発奮し、大会を満喫した。

ボランティア4600人

○ボランティア4600人が、大会をサポートした。ボランティア4600人が、大会をサポートした。ボランティア4600人が、大会をサポートした。

脇浜交差点を左折、折り返し点に向かう選手たち



タンザニアのジュマ・イカンガー選手



優勝
 第4回大会

男子 愛三工業 陸上部監督 仙内 勇

女子 ロシア セミヨノバ・ジナイーダ

